

株式会社明治の森市場 経営状況報告書

2024年度 事業実績報告書

2025年度 事業計画

2024年度 決算報告書

株式会社明治の森市場

2024年度（令和6年度） 事業実績報告書

はじめに

2024年度は、当初予定していた10月オープンから前倒しし、2024年4月26日にリニューアルオープンを迎えることができました。2022年12月に策定した「道の駅明治の森・黒磯 第三セクター設立事業計画書」において、初年度売上約1.6億円、営業赤字約170万円の計画でしたが、結果として売上5億円を超え黒字決算を実現するなど、計画を大きく上回る成果を上げることができました。

これは「農家が集まる道の駅」というコンセプトのもと地域農家との連携と、出資者の皆様や行政の皆様からのご協力、何より市民の皆様の応援があったからこそその結果であり、リニューアル初年度を無事終えたことを心より感謝申し上げます。



全体総括

●売上、集客の状況

24年度の売上はマーケット、ダイニング、ミルクスタンド3部門合わせて合計481,850,533円でした。
また指定管理費や乳製品の卸販売を含めた売上は**514,098,089円**でした。
来場者数は**569,843人**でした。(マーケットの会計数×2.5人で推計)。

営業月	営業日数	直売所		レストラン		ミルクスタンド		総売上金額(税別)	想定総来客数
		売上金額	会計数	売上金額	会計数	売上金額	会計数		
4月	5	10,554,251	5,701	667,753	711	1,281,688	1,695	12,503,692	14,253
5月	30	44,437,677	25,373	3,140,639	2,739	3,779,455	5,253	51,357,771	63,433
6月	29	34,905,117	21,146	2,650,327	2,292	2,677,472	3,975	40,232,916	52,865
7月	30	37,824,517	21,667	2,670,852	2,474	2,765,064	3,881	43,260,433	54,168
8月	31	50,851,046	26,991	5,147,410	4,589	4,482,676	5,785	60,481,132	67,478
9月	29	39,645,941	22,140	3,605,803	3,210	2,605,134	3,791	45,856,878	55,350
10月	30	37,817,610	21,680	3,423,136	2,960	2,110,350	3,032	43,351,096	54,200
11月	29	37,772,402	20,474	3,776,156	3,080	1,514,529	2,236	43,063,087	51,185
12月	28	33,497,807	16,863	3,004,554	2,566	826,168	1,287	37,328,529	42,158
1月	26	25,162,137	12,806	2,062,694	1,915	718,705	1,011	27,943,536	32,015
2月	24	27,957,592	13,421	2,102,458	1,868	764,272	1,135	30,824,322	33,553
3月	31	41,107,344	19,675	3,099,792	2,691	1,440,005	1,971	45,647,141	49,188
累計	322	421,533,441	227,937	35,351,574	31,095	24,965,518	35,052	481,850,533	569,843

※総来客数は、直売所売上客数の2.5倍とする

[illegible]

「農家の集まる道の駅」として、農家が集まることで産直としての賑わいが作られ、地域の方にも観光客の方にも喜んでいただける道の駅にしていきたいこうと**コンセプト**を策定いたしました。

また、ミッションを以下として掲げ、スタッフの意思統一を図ってまいりました。

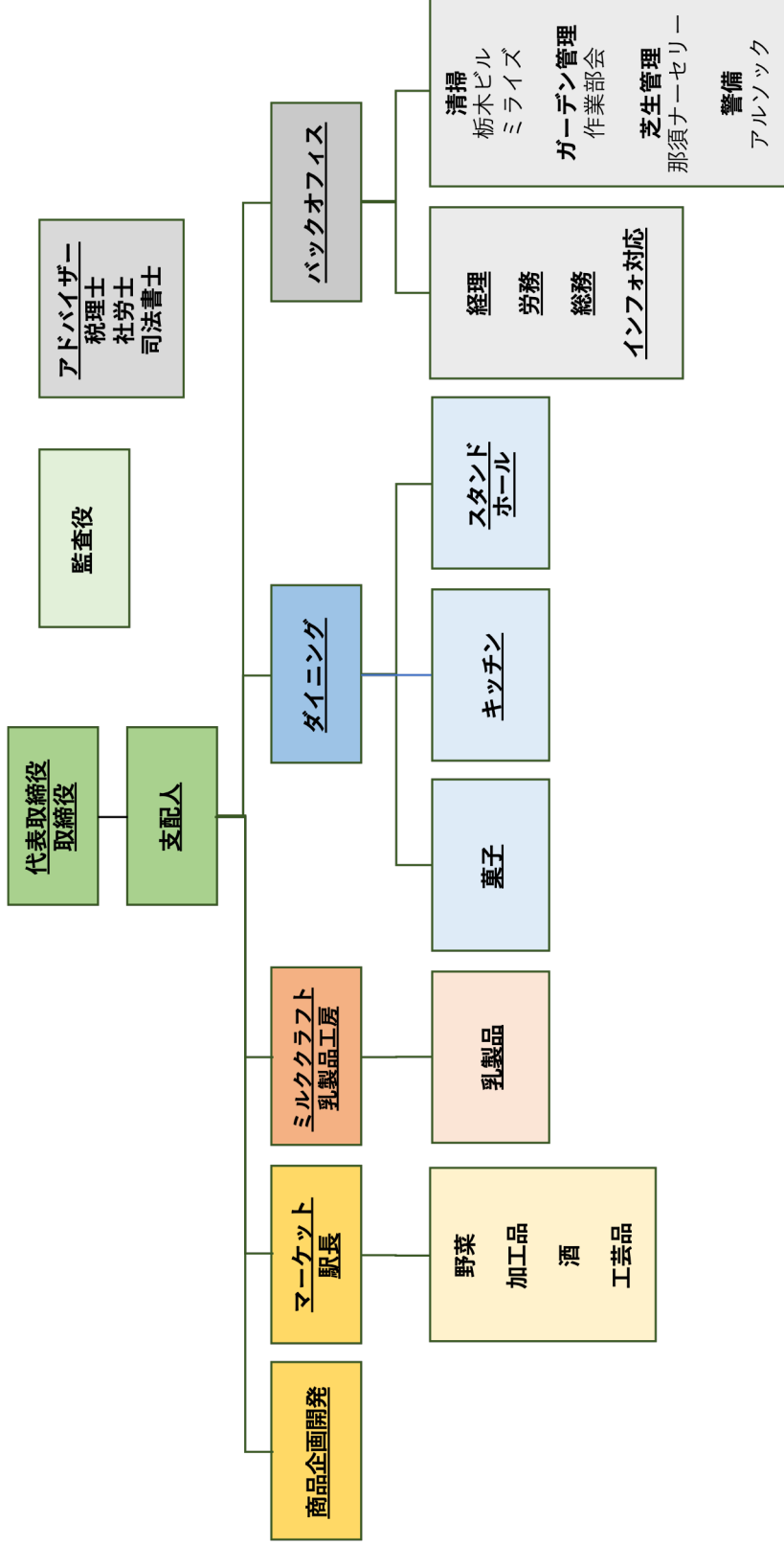
食と農でつながる明治の森コミュニティをつくる

生産物の価値を高め利益を生むことと
お金に頼らない密な関係性を構築すること
田舎らしい豊かな暮らしをつくる

全体総括

●運営体制について

経営として、代表取締役他に取締役2名、監査役1名で隔月に取締役会を開催し、経理、労務、法務など外部からアドバイスいただける体制をとっております。支配人を中心にマーケット、クラフト、ダイニング、バックオフィスにそれぞれのリーダーを立て、各部門ごとに担当を作り、運営体制を構築いたしました。また、道の駅に集まる生産物の価値を高めるための商品開発を行う部門として、商品企画部門を作りました。清掃業務、ガーデンの管理、芝生管理、警備などは外注により管理を行っております。



各部門の総括

マーケット部門

売上

通年の売上は421,533,441円(予算比106.9%)、会計数227,937回、会計単価1,849円でした。

出荷者数

オープン当初は出荷者数が174件(農産物114件、加工品60件)でしたが秋以降に出荷者の新規募集を再開し現在では245件(140%)となりました。

出荷者が増えたことで野菜の欠品も減り集客や売上にもつながったと考えられます。

オープン時	174件
25年3月末時点	245件 (140%)

システム改善

売上データ分析や顧客管理へのシステム活用が十分ではないため、リピーター作りや販売戦略への活用が課題と考えられています。



イベント開催について

リニューアルした道の駅を知っていただくためにコンセプトに合わせたイベントを開催し集客を促すことができました。

・牛乳の日イベント 6月1日開催

栃木県酪農青年女性会議の皆様と協力し「牛乳の日」に合わせ道の駅で販売する7種類の牛乳の飲み比べを行いました。酪農家も集まり、生産者同士の交流のほか、乳製品のPRをすることができました。

・農家の夏祭り 8月24日開催

出荷者さんが中心となり「野菜釣り」や「冷やしきゅうり販売」など、農家らしい内容で夏休みの道の駅を盛り上げました。

・クリスマスマーケット 12月14日、15日

集客の落ち込む冬季の施設活用を進めるためにクリスマスマーケットを開催いたしました。大勢の来客によりイベント出店者も売り切れが続出し、来客者アンケートでは93.4%の方に「次の開催を希望する」と回答をいただきました。

・農家の編集部完成イベント 3月9日

出荷者さんの生産物を使った商品開発第一弾としてダイニングでも使用しているドレッシングを「手塚さんの長ネギドレッシング」として開発、販売いたしました。



ダイニング部門(ミルクスタンド含む)

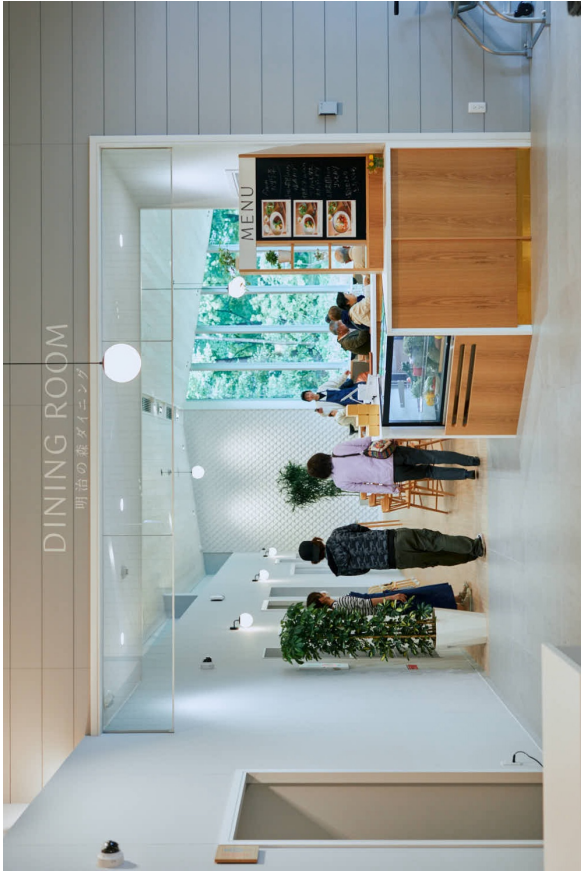
レストラン

年間の売上35,351,574円(税別)、利用客数31,095人、平均客単価1,136円/人(税別)でした。

現在パスタ2種、カレー、ハンバーグ2種、キッチュの食事メニューとミルクプリン、リンツァートルテ、ソフトクリームなどのスイーツメニューを展開しています。季節ごとのメニューを展開やハンバーグやドレッシングの商品化など、他部門との連携を図っています。25年度はマーケットでの惣菜やお弁当の販売も予定しており、キッチンの稼働率を上げる予定です。

ミルクスタンド

年間の売上24,965,518円、利用組数35,052人、平均組単価712円/人でした。ソフトクリームを中心にドリンクメニューや季節のパフェなどの他、冬季にはスープレの提供も行っております。冬季の落ち込みの対応やメニューの変化が課題で、菓子工房やキッチンとの連携強化が必要です。



ミルククラフト(乳加工)

商品について

オープン当初、牛乳、飲むヨーグルト、ソフトクリーム
の製造販売から始まり、2025年1月に発酵バターの
製造を開始しました。発酵バターは販売するとすぐに
完売してしまう人気商品で、今後はこの発酵バターを
使用したお土産品なども開発予定です。

またバター製造時に排出されるスキムミルクは那須地
域で人気のお土産品「バターのいとこ」の原料として
活用される予定で、地域の生乳を無駄にすることなく
価値を高めて販売することにつながっています。

しかし、牛乳や飲むヨーグルトは売れ残りも発生する
ことがあり、更なる販売促進や商品開発が必要です。

卸販売の実績

25年3月より近隣店舗で牛乳やのむヨーグルトなどの
卸販売が始まりました。しかしまだ取引先は3件のみ
で製造稼働率を上げるためには取引先の拡大が課題で
す。ソフトミックスや業務用の取引など、レストラン
やカフェへの取引、また県内外の道の駅とのコラボ商
品開発など積極的に営業を行いたいと思います。



菓子工房

マーケット、ダイニングでの販売実績

マーケット部門へ焼き菓子やミルクプリンなどの販売で710万、ダイニングでの販売で194万、合計904万円を売り上げました。その他イベントでの販売など、お菓子の在庫が足りない状況が続き、工房としての稼働率は高い状態でした。

また、ソフトクリームのトッピングを製造したりダイニングの季節スイーツを開発したり、商品開発としての機能も担うことができました。

商品開発

今後は焼き菓子の一部をOEM製造に出すことで、菓子工房自体を季節の素材を価値にするための商品開発や「生感」のある商品、手作り感のある製造に特化するなど、小規模工房を活かした商品展開を考えております。



商品開発

商品開発によって素材の価値を高めたり、過剰になる野菜の保存や規格外品の商品化など、付加価値向上と課題解決につながるような商品作りを目指しています。また自社商品の販売は利益率の向上にもつながるため、明治の森市場の事業として重要になると考えています。

●農家の編集部

農家が主体となった商品作りを明治の森市場が編集部として位置づけて開発を行う商品です。「手塚さんちの長ネギドレッシング」を第一弾としてすでに販売開始をしており、今後は「和泉さんの経産牛カレー」「小山さんのカブのスープ」「コクリコのカップアイス」などの販売を予定しています。

●菓子工房

焼き菓子など賞味期限の長い一部商品をOEM製造に出し、賞味期限の短いものや季節感のあるスイーツなどを主に製造していく予定です。



決算状況報告

	設立前の事業計画 (2022年11月策定)	当初予算 (2024年4月時)	24年度実績	予算比
売上高	162,574,839	495,681,485	514,098,089	103.72%
売上原価	101,714,000	347,827,890	372,463,692	107.08%
売上総利益	60,860,839	147,853,595	141,634,397	95.79%
販売管理費	62,581,124	145,419,594	136,480,179	93.85%
営業利益	-1,720,284	2,057,801	5,154,218	250.47%
経常利益	－	－	6,533,765	
税引前当期純利益	－	－	6,533,765	
法人税等	－	－	209,500	
当期純利益	－	－	6,324,265	

売上高は当初予算比103.7%と計画を上回り、設立時の事業計画に対しても大幅な進捗となりました。

売上原価がやや高めに推移した一方で、販売管理費の抑制により営業利益は予算比の2.5倍超を記録しました。

売上総利益の予算未達には、原材料コストや売上構成比の影響があり、今後は原価管理の強化や高付加価値商品の構成比向上が改善点として挙げられます。初年度としては概ね良好な結果といえます。

損益計算書 月次推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
売上高	13,328,708	52,319,779	45,164,290	44,539,755	61,701,003	50,964,176	44,283,378	44,021,886	42,504,822	31,294,851	31,635,048	52,340,393	514,098,089
売上原価	16,613,622	36,120,760	31,688,423	33,811,509	45,595,783	35,144,681	34,124,130	34,135,667	32,256,908	23,420,769	23,850,714	25,700,726	372,463,692
売上総利益	-3,238,542	17,106,219	14,446,755	11,562,921	17,629,636	16,820,306	11,182,942	10,953,579	10,928,430	8,576,522	8,513,510	17,152,119	141,634,397
販売管理費	16,402,247	8,840,977	10,922,363	9,777,967	12,249,320	9,054,513	11,333,177	10,886,956	15,405,934	10,159,293	10,609,005	10,838,427	136,480,179
営業利益	-19,640,789	8,265,242	3,524,392	1,784,954	5,380,316	7,765,793	-150,235	66,623	-4,477,504	-1,582,771	-2,095,495	6,313,692	5,154,218
経常利益	-19,635,387	8,270,417	3,518,518	1,873,400	5,379,938	7,763,624	-87,025	57,136	-4,475,706	-1,597,056	-2,100,835	7,566,741	6,533,765
当期純利益	-19,635,387	8,270,417	3,518,518	1,873,113	5,379,938	7,763,624	-87,025	57,136	-4,475,706	-1,597,056	-2,100,835	7,357,528	6,324,265

4月26日のオーブン以降、売上は堅調に推移し、8月には月次売上高が6,000万円を超えるなど、事業は順調に立ち上がりました。売上総利益率は年間を通じて安定しており、収益構造が一定水準で維持されていることがうかがえます。

一方、12～2月は冬季の集客減により営業利益が赤字に転じており、今後は季節変動を見据えたコスト管理と販促強化が課題です。

貸借対照表 2期比較

	第1期 2023年3月31日	第2期 2024年3月31日	増減
資産	流動資産	110,251,547	+61,250,462
	固定資産	7,617,317	+6,417,430
	資産の部合計	117,868,864	+67,667,892
負債	流動負債	65,272,830	+61,343,627
	固定負債	0	±0
	負債の部合計	65,272,830	+61,343,627
純資産	資本金	59,800,000	±0
	利益剰余金	-13,528,231	+6,324,265
	純資産合計	52,596,034	+6,324,265
	負債純資産合計	117,868,864	+67,667,892

第1期は売上がまだ立っておらず開業準備期間にあたるため、資産・負債ともに小規模でした。

第2期は4月26日のリニューアル以降、売上が発生し、事業が本格稼働したことで、流動資産と負債が大きく増加し、資金の流れが活発になりました。純資産も増加し、事業の基盤形成が進んだ様子がかがえます。今後は売上の成長とともに、収益性や財務バランスの維持が重要となります。

2025年度（令和7年度） 事業計画

25年度計画

25年度は「深めて、固める一年」

2024年度はリニューアール初年度として、店舗運営・商品構成・農家との関係づくりなど、事業の基礎を整える「土台作りの年」でした。動きながら考える部分も多く、手探りの側面もありましたが、一定の成果をもって着地することができました。

2025年度は、整いつつある体制をもとに、既存の事業を“**成長させながら固める年**”と位置づけます。拡大よりも一つひとつを深め、幅を広げるよりも「質を高める」ことを意識し、農家・顧客・地域との関係性を見直しながら、持続可能な運営モデルの構築を目指します。

この基盤強化の上に、2026年度以降の新たなチャレンジが芽吹くと考えており、飛躍に向けた準備を着実に進める一年にしたいと考えています。

一方で、**既存資源を最大限に活用するための取り組みも積極的**に進めます。通販サイトの立ち上げ、体験事業の開始、顧客管理システムやモバイルオーダーの導入など、現場実行型のチャレンジを通じて、未来につながる成果を生み出していきます。

今年度の具体的な施策

【1. データの活用】

産直管理システム「アグリープラス」を活用し、売上や品目ごとの販売傾向を可視化する準備を進めています。いつ、どの作物が売れたのかを分析し、農家さんにとって有益な「農家の成績表」のようなフィードバック資料を目指して、現在は情報収集とデータ整備を行います。今後、こうした仕組みを通じて農家との信頼関係をより深め、出荷タイミングや品目選定に役立つ情報提供体制を構築したいと思います。

【2. 顧客管理】

来店者の購買傾向や頻度など、顧客の動向に関するデータ活用がこれまで不足していました。今年度はスマホレジや会員アプリを活用し、顧客情報の収集と分析に着手します。蓄積されたデータをもとに、リピーターの可視化とセグメントごとの販促施策を組み立て、顧客接点の質向上に取り組みます。

今後はこれらの分析を通じ、再来店を促す効果的な仕組みづくりを進めていきます。

【3. 通信販売】

これまで取り組んでこなかった通信販売を、今年度より本格的に開始します。まずは人気の加工品やギフト向け商品を中心に、自社商品をオンラインで購入できる環境を整備します。地域外の方にも商品を届けられる仕組みとし、販路の多様化を目指します。併せて、ふるさと納税への掲載も強化し、地域と連携した販売チャネルとして活用していく計画です。

【4. 体験事業】

今年度から、農業や地域に関心を持つ人々に向けた体験事業を開始します。農家の作業を手伝うプログラムや、観光客が気軽に参加できる体験イベント、学校や地域の子どもたちに向けた教育的な農業体験など、対象ごとに内容を設計します。体験の場が農家の支援にもつながり、同時に地域とのつながりを深める機会になるよう、年間を通じた企画実施を進めていきます。

今年度の具体的な施策

【5. 冬季の施策】

閑散期となる冬季に向けて、商品開発と仕込みの強化を図ります。保存性の高い加工品の製造や、新商品の仕込み期間として計画的に時間を活用。また、冬に開催される地域イベントへの出店や、地元住民に向けた特典施策を組み合わせ、季節要因による売上減少の緩和を目指します。年間通じて安定した事業運営を可能にするため、冬期ならではの動き方を模索します。

【6. 敷地内の充実】

明治の森市場を「公園のような道の駅」として育てていくことを目指し、敷地内の機能拡充に取り組みます。ハンナガーデンを活かした植栽・景観整備のほか、ペット連れの方が安心して訪れられる施設整備やサービス導入を検討中です。買い物だけでなく、滞在型・回遊型の楽しみ方ができる場所として、多様な来訪動機を創出し、地域との関係性を深める場づくりを進めます。

【7. 商品開発】

収益性の改善と農家支援の両立を目的に、商品開発に注力します。余剰農産物や規格外品を活かした加工食品や、農家の想いや暮らしを表現する商品など、単なる加工品にとどまらない提案型商品を目指します。明治の森市場を「農家の編集部」として、商品の向こう側にあるストーリーを伝え、農産物に新たな価値を与える取り組みを展開していきます。

【8. モバイルオーダーの導入】

今年度、ダイニングにモバイルオーダーを導入します。これにより、注文業務を効率化し、人員削減とスタッフのサービスの対応への集中を図ります。また、テラス席からの注文が可能になることで、ペット連れのお客様もより快適にご利用いただける環境が整います。今後は会員制度との連動により、来店履歴や購買データの活用にもつなげていく予定です。顧客体験と業務効率の両立を目指した施策として、導入効果を丁寧に検証していきます。

25年度予算

	24年度実績	25年度予算	昨年実績比
売上高	514,098,089	627,768,468	122.11%
売上原価	372,463,692	455,023,065	122.17%
売上総利益	141,634,397	172,745,403	121.97%
販売管理費	136,480,179	165,480,688	121.25%
営業利益	5,154,218	7,264,716	140.95%
経常利益	6,533,765	—	
税引前当期純利益	6,533,765	—	
法人税等	209,500	—	
当期純利益	6,324,265	—	

2025年度は、前年度実績比122%の売上高を計画しており、引き続き成長基調を見込んだ積極的な予算編成となっています。売上原価・販管費も同様に増加を想定しつつ、営業利益は約1.4倍を計画しており、収益性の向上も視野に入れています。商品構成の見直しや販売効率の改善により、粗利率の維持と費用対効果の最適化を図ることが今期の重要課題となります。

25年度月次予算

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上高	物販	47,530,883	51,198,587	40,457,805	44,376,940	59,085,342	47,582,247	44,565,636	40,663,329	29,558,924	32,422,219	44,489,930	526,461,858
	飲食	5,348,880	7,551,353	5,348,880	5,586,612	10,050,132	6,447,030	5,913,077	4,103,603	3,366,193	3,091,826	5,364,840	67,895,766
	乳製品 (外販)	214,260	214,260	242,660	313,620	313,620	434,585	450,730	422,330	422,330	422,330	422,330	4,295,385
	業務委託 (指定管理)	835,455	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	826,364	9,925,459
	業務委託 (維持管理)			4,210,000			4,210,000		4,210,000			4,210,000	16,840,000
	業務委託 (青木邸)			587,500			587,500		587,500			587,500	2,350,000
	売上高 計	53,929,478	59,790,565	51,673,209	51,103,536	70,275,458	60,087,726	51,530,449	51,727,407	34,173,812	36,762,739	55,900,964	627,768,468
売上原価	物販	36,599,031	39,090,502	30,768,039	33,606,497	44,996,084	35,247,032	33,291,626	30,165,944	22,130,705	24,467,364	33,251,392	396,925,958
	飲食	1,466,162	2,029,193	1,466,162	1,528,790	2,740,229	1,813,705	1,635,386	1,255,081	1,019,522	933,456	1,542,137	19,167,258
	部門仕入計	38,065,193	41,119,695	32,234,200	35,135,287	47,736,313	37,060,737	34,927,012	31,421,026	23,150,227	25,400,820	34,793,529	416,093,216
	当期製品製造原価	2,852,242	2,947,200	2,717,657	2,795,077	2,999,004	2,785,470	2,817,194	2,538,965	2,402,222	2,373,212	2,735,624	32,669,785
売上原価 計		41,074,413	44,512,814	35,357,793	38,500,341	51,340,877	40,596,622	38,484,405	34,376,478	25,968,488	28,154,738	38,266,352	455,023,065
売上総損益金額		12,855,064	15,277,751	16,315,415	12,603,195	18,934,582	19,491,105	13,046,044	16,436,648	8,205,323	8,608,002	17,634,612	172,745,403
販売管理費 計		13,369,310	14,872,295	13,715,534	13,862,381	16,285,963	13,546,118	14,025,748	14,986,324	12,407,865	12,389,704	12,836,750	165,480,688
営業損益金額		-514,245	405,456	2,599,881	-1,259,186	2,648,618	5,944,987	-979,704	154,967	-4,202,541	-3,781,702	4,797,862	7,264,716

不安と手応えの一年を振り返って

2024年度は、予想を超える多くのお客様にご来場いただき、売上・来場者数ともに当初の事業計画を大きく上回る成果となりました。「農家が集まる道の駅」というコンセプトのもと、地域の皆さまや農家の方々とともに新しい価値を創出できたことを、心より感謝申し上げます。

私自身、初めての道の駅経営ということで、不安や手探りの連続でしたが、同時にこの場所と仕組みには大きなポテンシャルがあるという確信もありました。この一年を通じて、私は「産直」というモデルに強い可能性を感じました。生産者が自ら売る現場に関わることで、ただ商品を届けるだけでは得られない体験や信頼関係がお客様ととの間に生まれることを実感しています。特に私も長年関わる酪農のような産業にこそ、産直という場が果たす役割の大きさは計り知れません。

また、明治の森・黒磯が持つ豊かな自然や立地の魅力、そして道の駅という公的でありながらも柔軟性を持つ施設としての可能性の高さにも、改めて気づかされました。

まだまだできることはたくさんあります。商品開発、体験事業、顧客との関係性の深化などを通じて、持続可能で魅力ある場を、スタッフ一同とともに育てていきたいと考えています。

その歩みを支えてくださるのは、日々現場で奮闘してくれるスタッフの存在であり、行政や議員の皆さまの温かな後押しであり、そして多くの協力をいただいている株主の皆さまです。

この場を借りて、改めて心より御礼申し上げます。

2025年度も引き続き、新たな挑戦を続けながら、地域に根ざし、成長を重ねる明治の森市場を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社明治の森市場
代表取締役 山川将弘

決 算 報 告 書

2024 年度

自 2024年 04月01日

至 2025年 03月31日

株式会社明治の森市場

貸借対照表

2025年03月31日 現在

株式会社明治の森市場

(単位： 円)

資産の部

【流動資産】

現金及び預金	79,682,572
売掛金	6,488,592
商品	4,977,344
前渡金	168,326
立替金	351,629
前払費用	344,300
未収入金	18,238,784

流動資産合計

110,251,547

【固定資産】

【有形固定資産】

附属設備	1,843,437
機械装置	2,429,159
車両運搬具	549,405
工具器具備品	2,028,497

有形固定資産合計

6,850,498

【無形固定資産】

ソフトウェア	666,819
--------	---------

無形固定資産合計

666,819

【投資その他の資産】

差入保証金	100,000
-------	---------

投資その他の資産合計

100,000

固定資産合計

7,617,317

資産の部合計

117,868,864

負債の部

【流動負債】

買掛金	39,509,799
未払金	13,578,045
未払法人税等	209,500
未払消費税等	9,890,100
預り金	135,386
賞与引当金	1,950,000

流動負債合計

65,272,830

負債の部合計

65,272,830

純資産の部

貸借対照表

2025年03月31日 現在

株式会社明治の森市場

(単位： 円)

【株主資本】

資	本	金	59,800,000	
利	益	剰	余	金
そ	の	他	利	益
剰	余	金		
繰	越	利	益	剰
余	金		-7,203,966	
そ	の	他	利	益
剰	余	金	合	計
			-7,203,966	
利	益	剰	余	金
合	計		-7,203,966	
株	主	資	本	合
計				52,596,034
純	資	産	の	部
合	計			52,596,034
負	債	及	び	純
資	産	の	部	合
計				117,868,864

損 益 計 算 書

2024年04月01日 ～ 2025年03月31日

株式会社明治の森市場

(単位： 円)

【売上高】

売 上 高	514,098,089	
売 上 高 計		514,098,089

【売上原価】

当 期 商 品 仕 入	345,511,508	
当 期 商 品 仕 入 高		345,511,508
期 末 商 品 棚 卸	2,885,418	
期 末 商 品 棚 卸 高		2,885,418
商 品 売 上 原 価		342,626,090
当 期 製 品 製 造 原 価	31,929,528	
期 末 製 品 棚 卸	2,091,926	
期 末 製 品 棚 卸 高		2,091,926
製 品 売 上 原 価		29,837,602
売 上 原 価 計		372,463,692
売 上 総 利 益		141,634,397

【販売管理費】

販 売 管 理 費 計		136,480,179
営 業 利 益		5,154,218

【営業外収益】

受 取 利 息	9,399	
雑 収 入	1,518,758	
営 業 外 収 益 計		1,528,157

【営業外費用】

雑 損 失	148,610	
営 業 外 費 用 計		148,610
経 常 利 益		6,533,765
税 引 前 当 期 純 利 益		6,533,765

【法人税等】

法人税・住民税及び事業税	209,500	
法 人 税 等 計		209,500
当 期 純 利 益		6,324,265

製造原価報告書

2024年04月01日 ～ 2025年03月31日

株式会社明治の森市場

(単位： 円)

【材料費】

当期原材料仕入高	8,372,516	
材料仕入高		8,372,516
材料費計		<u>8,372,516</u>

【労務費】

役員報酬	470,000	
給料手当	10,897,405	
賞与	894,186	
法定福利費	1,583,340	
賞与引当金繰入	552,000	
労務費計		<u>14,396,931</u>

【製造経費】

外注加工費	453,597	
荷造運賃	61,480	
旅費交通費	287,475	
消耗品費	3,828,249	
事務用品費	1,094	
消耗工具費	275,250	
修繕費	121,500	
水道光熱費	2,930,127	
諸会費	10,000	
減価償却費	220,841	
地代家賃	785,460	
租税公課	61,000	
研究開発費	5,782	
管理諸費	118,226	
製造経費計		<u>9,160,081</u>
総製造費用		<u>31,929,528</u>
製造原価		<u><u>31,929,528</u></u>

販売費及び一般管理費内訳書

2024年04月01日 ～ 2025年03月31日

株式会社明治の森市場

(単位： 円)

役	員	報	酬	2,120,000			
給	料	手	当	51,393,794			
賞			与	1,755,329			
法	定	福	利	費	6,339,659		
福	利	厚	生	費	117,686		
採	用	教	育	費	74,000		
外		注		費	17,577,295		
荷	造	運	賃	390,952			
広	告	宣	伝	費	3,028,458		
接	待	交	際	費	302,645		
会		議		費	2,989		
旅	費	交	通	費	1,441,827		
通		信		費	1,082,530		
販	売	手	数	料	5,713,606		
販	売	促	進	費	396,459		
消	耗	品		費	20,116,801		
事	務	用	消	耗	品	費	299,293
修		繕		費	2,582,322		
水	道	光	熱	費	5,299,922		
諸		会		費	88,500		
支	払	手	数	料	554,262		
地	代	家		賃	7,041,820		
賃		借		料	42,000		
リ	一	ス		料	160,800		
保		険		料	208,105		
租	税	公		課	135,068		
支	払	報	酬	料	1,511,984		
寄		付		金	10,000		
研	究	開	発	費	40,607		
減	価	償	却	費	1,584,216		
管	理	諸		費	3,235,949		
雑				費	387,848		
研		修		費	45,453		
賞	与	引	当	金	繰	入	1,398,000
販	売	管	理	費	計		

136,480,179

株主資本等変動計算書

2024年04月01日 ～ 2025年03月31日

株式会社明治の森市場

(単位：円)

	株主資本				利益剰余金					自己株式		評価・換算 差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	新株式 申込証拠金	資本剰余金		利益剰余金	その他利益剰余金			自己株式 申込証拠金	計				
			資本準備金	その他 資本剰余金		利益準備金	その他利益剰余金							
							別途積立金	繰越利益剰余金						
当 期 首 残 高	59,800,000							-13,528,231			46,271,769			46,271,769
新 株 の 発 行														
特別償却準備金積立て														
特別償却準備金取崩し														
剰 余 金 の 配 当														
剰余金の配当に伴う 利益準備金の積立て														
当 期 純 利 益									6,324,265		6,324,265			6,324,265
自 己 株 式 の 取 得														
株主資本以外（純額）														
当 期 変 動 額									6,324,265		6,324,265			6,324,265
当 期 末 残 高	59,800,000								-7,203,966		52,596,034			52,596,034

個 別 注 記 表

2024年04月01日 ～ 2025年03月31日

株式会社明治の森市場

1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する指針」によって作成しています。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

(a) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しています。ただし、原材料は最終仕入原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

(a) 有形固定資産

定率法を採用しています。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した附属設備及び構築物については定額法を採用しています。

(b) 無形固定資産

定額法を採用しています。

(3) その他計算書類の作成のための基本となる重要事項

(a) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

3. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

1,889,511円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数

1,196株

監 査 報 告 書

私は、株式会社明治の森市場の事業年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の会計監査及び業務監査を行いました。その結果につき、以下の通り報告いたします。

1 監査の方法の概要

私は経理責任者等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査し、業務報告を求めました。また事業報告書並びに会計帳簿等の調査を行い、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書の監査を実施しました。

2 監査結果

- (1) 事業報告書は法令及び定款に従い、法人状況を正しく示しているもの認めます。
- (2) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、上記の計算書類を記載と合致しているものと認めます。
- (3) 計算書類は、法令及び定款に従い、損益及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

令和7年5月19日

株式会社 明治の森市場

監査役

半 田 時 男